

分科会①「東日本大震災支援」 1日目

司会：小出 真一郎

委員：石野 富志三郎・石川 芳郎・渡辺 正夫
相川 浩一・伊藤 きく子

.....



司会：お待たせしました。お集まりいただきありがとうございました。

委員：全国手話通訳問題研究会（以下、全通研）の渡辺です。聴覚障害者災害救援中央本部（以下、救援中央本部）の担当としては財務と東日本大震災支援の担当になりました。わからないこともたくさんありますので、皆さんと一緒に協議していきたいと思います。

委員：全通研東京支部の相川と申します。渡辺委員と同じく東日本大震災支援の事業担当です。よろしくをお願いします。

委員：日本手話通訳士協会（以下、士協会）から出ている伊藤と申します。住んでいる場所は静岡県です。東日本大震災支援の担当です。よろしくをお願いします。

司会：ありがとうございました。討論を始める前にお願いがあります。今日明日の2日間の報告書を作るため、皆さん発言の際には必ず地域と名前を言っていただきたいと思います。報告書には名前は載せませんが発言の際にはよろしくをお願いします。いろいろ不手際もあると思いますがご協力ください。では、柱について救援中央本部の渡辺委員からお願いします。

委員：東日本の担当になり、基本にしたのはこれ。（『東日本大震災聴覚障害者救援活動報告書』発行・東日本大震災聴覚障害者救援中央本部、以下『活動報告書』）皆さんも配られて読んでいると思いますが、その中から柱、今までの経験の中で皆さんで討議した方がいいだろうと思うことをピックアップして整理しました。一番の大きな柱は復興支援の在り方についてです。

1番目として、救援中央本部を立ち上げます。また、地域でも本部を立ち上げます。それぞれの関係とか、私の聞いている範囲では、災害の地域の本部と、実際の災害の起きた地域が離れていてなかなかうまく連絡が取れなかったというような話も伺っています。このように実際のところで、地域の本部と実際の被災地との関係、また上の救援中央本部との関係でよりスムーズに進めるためにもっとよい連絡の方法は何なのかということでお話しいただければと思います。

2番目は実際に経験の中で体制作りをしてきました。この中にも図や絵が描いてあったと思います。物資や通訳保障というのがありましたね。そのような体制でよかったのか。もっとプラスして付け足すようなことがなかったのか、そのようなことについてもお話しいただければと思います。

3番目。全体会で久松委員の報告にありましたが、手話通訳の公的派遣については君島室長（厚生労働省）の決断で実際に始まったとのお話を聞きました。そのような情報保障についてどのようにやったらよいのかについて話を進めていただければと思います。

4番目は災害の補償についてです。実際に義援金を集め、そのあと請求をしていただいて分配をしました。団体からの請求もあり分配した、という経過があります。ただ、福島原発問題は